



平成25年7月1日発行

こんちわ奥さん



大丸エナウヰン 株式会社

「こんにちわ奥さん」係

〒559-0022

大阪市住之江区緑木1-4-39

TEL.06(6685)5101

ダイヤル 0120-093-025

http://living-poppo-garden.jp/



アガパンサス

梅雨時に歩いてみると、紫色の小さな花がたくさん下向きに付いた植物を見かけます。アガパンサス(紫君子蘭)はむらさきくん(らん)です。開花時期は6月下旬から7月末。比較的に立ち、街中でもごく普通に見かけますから、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。原産は南アフリカ、日本には明治時代中ごろに渡来しました。ゆり科の花で、名前は「愛らしい」と「花」というギリシヤ語を組み合わせてつけられました。花言葉は「知的な装い」。見た目とぴったりにです。見た目は優雅なのですが、その根は強く太いため、土手などの斜面の土をつかみ、流出を防ぎます。

「はじめに」
「こんにちわ奥さん」係から

腕が悪い医者のごことをヤブ医者(藪医者)といいます。その語源には諸説あって面白いので、主なものを紹介します。野巫医者は有力な説とされまゝす。巫術(ふじゆつ)は、簡単にいえば、まじない。野巫とは、野(田舎)の巫術師。怪しげなまじないで治療したのでしょうか。野巫を「藪」に替えたのは田舎を強調するためだったか。次も有力説。江戸期の文献にあります。養父(やぶぢ)、現在の兵庫県養父市に一人の名医がいました。弟子もたくさんいたのですが、そのうち、勝手に養父の医者とな乗る医者が多く現れました。養父の医者の大安売りで評判が落ちたのです。養父の名医には迷惑なことでしようが、偽ブランドが藪医者という言葉を生んだとすれば、面白いことです。以下は、天才といわれた故・桂枝雀さんの落語からの引用です。藪をかき分けて出かけなければならぬような、田舎の医者

名医だったヤブ医者 藪医者語源



だから藪医者。都会では通用しない腕なのでしよう。風(風邪)で動くから藪医者、というのも魅力的な説です。竹藪は風が吹くとザワザワと動きます。風邪くらいならあの医者でいいだろうと風邪で動かされるから藪医者なので。最初に紹介した有力な二説よりも、枝雀さんが紹介する説のほうが個人的には好きです。鼻肩の引き倒しにならないか、少し心配ですが。藪医者についての枝雀さんの落語は続きます。藪医者はまだ良いほうで、筍(たけのこ)医者というのがあります。筍が成長して、これから藪(竹藪)になろうということなんです。雀医者というのは、藪に向かつて懸命に飛んでいく医者。読者にお医者さまがおられたなら大変失礼をいたしました。

道路掘削、敷地内での改築・解体・給排水工事の際は、ガス管の確認を!

●建物の解体を行うとき、ガスが通じているかどうか判断できないガス管があるとき

●敷地内・建物内で新築工事を行うとき、道路や敷地内を掘削する際、くい打ち、矢板打ち並びに電柱設置などを行う場合

●宅地内のリフォームや、カーポートなどの根掘り・基礎打ちなどについても事前連絡をお願いします。



最近、工事中に誤ってガス管を損傷する事故が増えています。
工事を計画、発注されたら、必ず当社までご連絡ください。